

第一回 大切な家族・友人のための追悼ミサ

孤独のうちに自ら命を絶ったすべての人のために

教区司教 松浦 悟郎

この度、自ら命を絶ったすべての人のためのミサが行われることになったことを心からうれしく思います。

人は生きていく中で、時には孤独な状態に追い込まれたり、病によってこれ以上生きることができないという思いが頭をよぎったりすることは誰にでもあると思います。そんな時、思いとどまることができたとしたら、それは、誰かがそばにいてくれたり、一緒に苦しみを担ってくれたりされたからだと思います。人は誰もが与えられたいのちを生きていきたい、そして愛し、愛されたいという深い望みがあるからです。それを人との関りの中で感じることができたら、どれほど多くの人が死を選ぶことなしに生きられたことでしょうか。

残念ながら、日本では本当に多くの人が自らのいのちを絶っています。私も自死した人の葬儀をしたときに、この方はどれほど苦しかったらうか、そして、私たちが気づくことができなかったことを悔やむ気持ちで一杯になったことがありました。

カトリック教会は長い間、いのちは神からいただいた大切なものということを強調するあまり、自死した人に対して寄り添う姿勢が欠けていたことは事実です。神は人間を“関係存在”として、すなわち共に生きるようにつくられました。だからこそ、そのいのちを個人の問題だけにするのではなく、共同体として支え合い、育んでいく社会にしていく必要があります。

今日、自死した人々とその遺族の方々のために祈るとともに、その決意を新たにできればと願っています。